

# 圀川境界問題が解決



それは、この圀川の境界問題がいづころ始まったのか、圀川に關連した歴史を振り返ってみよう。

圀川は、練圀川から中川までの約二、三あり。以前は練圀川の本流でしたが、寛永年間(一六三〇)の練圀川改修、本流から取り残された部分に、その後、延宝八年(一七三〇)に練圀川が、享保十四年(一七三九)に中川口がせき止められ、農圃用水として使われた。そのため、兩岸の住民間で水の利用をめぐる争いが続きました。明治九年の地租改正にあたり、境界決定しようとした。

五月五日、市区境を流れる圀川の境界(葛西用水から練圀川までの一、四二〇、四三〇)について、境界は「川の中央(両河岸の中心)とする」ことで合意した。そして、鈴木宗治が八潮市と古性市に「足立区」を「区」市境確認書を取り交わした。これにより、長年の懸念した「八潮市と足立区」の境界問題は解決しました。

たが、合意にはいたりませんでした。大正四年、当時の埼玉、東京、都、府、市(八潮市)、花畑村(足立区)は、葛西用水から中川までの〇・八八について、川の中央、を境界とすことと合意しました。

昭和四十二年、八潮市と足立区を話し合いが再開されましたが、合意はいたりませんでした。しかし、昭和六十二年八月に再度話し合いを開き、現地調査などを行った結果、境界は「川の中央」とすると、合意し、今回の確認書を取り交わした。



八潮市長 鈴木宗治

長年の懸念であった圀川の境界問題について、今回解決をみたことは大変有意義なことであり、うれしいです。これも古性市足立区長をはじめ、足立区民の皆様のご理解と協力によるものと感謝いたしておきます。今後とも隣接自治体として、更に連携を密にしていきたいと存じます。



八潮の文化史 7 塾士のれきし 229号

八條に過ぎたる二人あり。大正師と結核病相度と聞かされたことがある。杉村祐善(一八八一—一九四五)は、明治末年から昭和初年にかけて、八潮地方の精神史の二頁を飾られた方である。

師は幼名は大部といい、北葛飾郡三芝江村の夜井長吉、一三の男として明治十四年九月五日(生)られた。十一歳のおり高小(川井)密蔵院入寺し、翌二(一八九二)三月二十一日に杉村祐光尚より入塾を受けた。そして同十九年三月に夜井祐善と改名した。密蔵院で修業後、豊山派東京高等哲学林に学び、同十六年に私立哲学堂(東洋大学)を終了し、同四十五年(昭和二十年)に明治十六年頃、高久密蔵院住職の杉村祐光の養子となり、密蔵院末寺の吉川町密蔵寺の住職となつた。養父のすすめにより同三十八

年十二月二十日高久の深井哲哉とはの次女(一八八五—一九二四)と結婚。同三十九年八月に川村村三蔵院の住職、同四十年九月二日に三蔵院の住職となつた。

明治四十二年一月から私立豊山大学監督(寮監)となり、同四十五年には豊山金沢附屬高等学院事務長、大正三十四年に尋常学院教授、同五年には豊山派宗務所庶務長として勤めた。同三十八年三月に妻に他界すると、同四十四年三月に豊山大学寮監を退職し、同四十五年には修行僧の指導の指導と監督で毎週月曜日出動し、土曜日まで修行僧の指導にあたつた。昭和五年八月に宗務所事務長となり、同八年八月にその職を退かれ、その後には住職に専念された。

明治期の宗教界が、宗門の確執で宗派内の結束が強かたが、他宗派との交流が少なかった。明治末年からの地方改良運動頃から他宗派との交流が盛んになり出し、南埼玉郡は、大正五年七月に郡長鎌倉巨松が発起となり、一仏教護国団の設立を画したが組織されるまでに至らなかった。仏教護国団が組織されたのは、郡長山下伊三郎時代の同大正十二年五月になってからである。杉村祐善は、真言宗豊山派を代表して仏教護国団の創立協議員を務めた。

その一方で、八條村に大正十二年四月二十日、大乗仏教「精神」村民ノ徳性ヲ商業シテ生活ヲ淨化シテ自治団體ノ精神ヲ基礎ヲ確立スルヲ目的トス」の八條仏教会を組織し、その初代の幹事長となる。八條仏教界では、同十三年三月二十日機関誌「八條教壇」

を創刊した。「八條教壇」は(号六)大正十六年一月(日)昭和二年(日)まで発行され、杉村祐善の編輯人となり執筆されている。

更に八條村・川柳村・八幡村・湖止村(四か村の仏教寺院が「東武教会」(創立年不詳)を組織。その会誌となり機関誌「八條教壇」(馬場光吉が六号の歳、昭和二年十月(日)発行)を発行。その編輯人は「八條教壇」と「東武教壇」を読み心に感した箇所は、関東大震災で八條村が救済事業として美譽を上げ、「住持道下妻街道筋に於て、些少ながらも兎に角救済事業なして、真に人類愛のために同胞の愛を分かつたのは、以上述べたる本村内の事業の外四隣他村に見なかつたことは遺憾であらう。所謂模範村の体裁や村の高が出来ても人の高が道徳的に富まなければ人類愛に対しては

ますす遅れてしまいます。その、暗くとげし、くながちな家の中を空気を明るく染み入る事が大切である。恐らく、このお子さんの言葉がないため、両親の間でも、また、お子さんに対しては言葉のやりとりは極少の状態になっていませんか。少しのその生活は、お子さんの心の準備の最悪の環境だといつても言つてもいいからといって、動作が返ってないからといって、動作をすいに推測し合うのはやめて、お子さんの手や身体

何等の価値がない、此の点に於いて今回我八條村のとりし態度は精神的模範村たることを失つた(創刊誌)と綴り、模範村湖止村の震災後の対応を批判している。師は明治十二年から南埼玉郡民力面業の講師を務め、国庫の社会教育にあたられた方である。師は八戦の年の昭和十年十二月十八日六十四歳で過世された。



『八條教壇』(清勝院蔵)

## 教育相談 84

### 言葉のおそい一人っ子



問 四歳の男の子ですが、まだ全然言葉が出てこないです。近所の子供たちと大声でしゃべりながら、とんりはわたりしているのに、うちの子だけ、向いしゃべりやありません。

答 父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、お友達と、お話を聞いてあげてください。言葉の準備は、お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達と、お話を聞いてあげてください。

問 四歳の男の子ですが、まだ全然言葉が出てこないです。近所の子供たちと大声でしゃべりながら、とんりはわたりしているのに、うちの子だけ、向いしゃべりやありません。

答 父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、お友達と、お話を聞いてあげてください。言葉の準備は、お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達と、お話を聞いてあげてください。